



梶原岐阜県知事に激励を受けた職員のみなさん

広報 ひがし しらかわ

1992
平成4年

3

No.371

発行 東白川村・編集企画課
岐阜県加茂郡東白川村神土
〒509-13 ☎05747-8-3111
印刷 下呂印刷株式会社

人口の動き

— 2月末住民登録人口から —

世帯数	909世帯
人口	3,474人
転入	6人
転出	9人
出生	3人
死亡	4人

先月と比較して4人減
昨年と同月と比較して
25人減

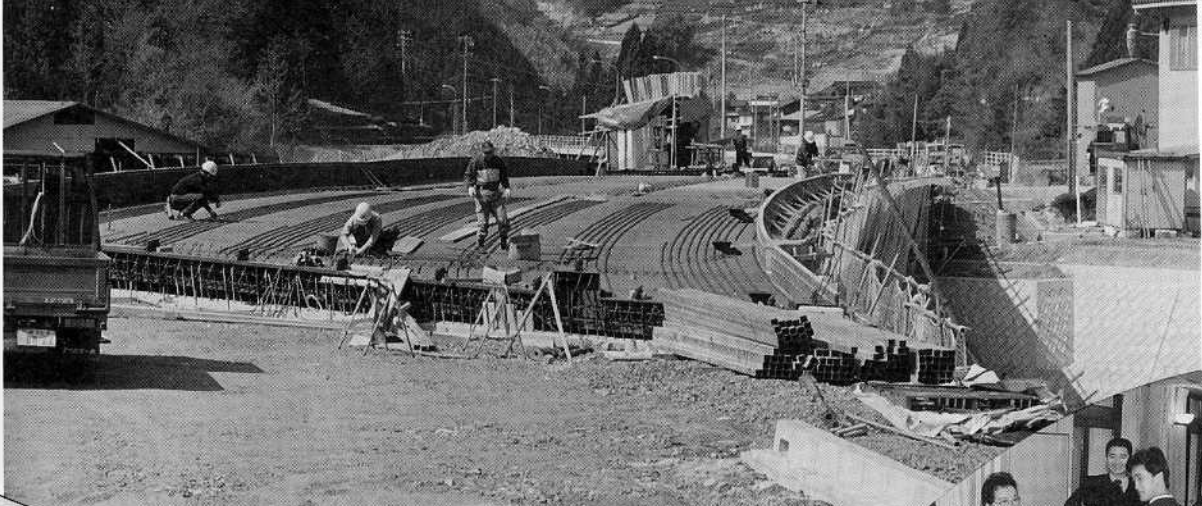
福祉村への幕明け

3月4日、村民待望の福祉施設「せせらぎ荘」の竣工式が、梶原拓岐阜県知事をはじめ村内外から約80名の来賓を招いて盛大に行われました。あいさつに立った梶原知事は「いろいろな工夫がされていて実に、素晴らしい施設です」と絶賛。

また、竣工式に先だって2月29日に行われた老人クラブの内覧会では、約150人のお年寄が見学、どの部屋も大好評となりました。



特殊浴室の説明を聞く皆さん（内覧会より）



工事が進む下野橋



せせらぎ荘の見学で輪投げに興じるお年寄り

前向き予算

私たちの村の平成四年度の予算が、三月九日から始まった村議会定例会で承認をされました。

バブル経済の崩壊などによる厳しい財政事情の中で、国が二・七％、県が四・八％という

のきなみ低い伸び率の状況下にあつ

て私たちの村の一般会計予算は、七・四％増の二十四億七千八百万円。総額で前年よりも四億円以上も多い十二・七％増の三十六億二千六百八十三万円と、まさに近未来二十一世紀に向けて、「夢」を実現するため



どの家庭でも同じだと思いますが、家計でまず第一に考えるのは、衣食住の「生活」です。東白川村という大きな家庭でもやはりそれは同じです。私たちが村に住む者一人一人が

総額三十六億二千六百八十三万円（十二・七％増）

一般会計—二十四億七千八百万円（七・四％増）

国民健康保険特別会計—二億一千万円（十五・七％減）

老人保健特別会計—二億五千五百万円（〇・四％増）

有線放送電話特別会計—二千三百四十万円（七・一％減）

簡易水道事業特別会計—二億七千七十九万円（新規）

分収造林特別会計—二百万円（新規）

病院事業特別会計—三億八千七百六十四万円（一・八％増）

「住み易い」「便利だ」と感じることでできる生活環境を第一に考えなければなりません。

新年度事業で、最大の目玉の一つとなるのは、なんと「簡易水道の着工」といえるでしょう。今年度から「簡易水道事業特別会計」が新設され大

明神地内での取水場、浄水場を建設することになっています。

私たちの生活においては「道」は「命」ともいえます。主要地方道白川加子母線は、柏本橋の下部工とその前後の道路整備が行われ、新年度前半には下野橋の開通とともに、名商大の手前の橋を経由し供用が開始されます。また越原地内では、越原橋から池の島付近までが、神土地内では、病院付近の改良工事が予定されています。

村道は、病院の対岸に位置する平向線を「誘遊街道」と名付け開設に着手するほか、親田の井の平線・五加バイパスと関連する下野神矢線も着手します。

そのほか私たちの生活を支える「道」は、五ページの表に掲載しましたように、基幹農道・村単道路・生活道舗装など目白押しです。



「お年寄が元気なら村中が元気」をテーマにした高齢者対策は、新年度はさらにグレードアップします。完成した「せせらぎ荘」のサービスに加え、本年も、家庭奉仕員（ホームヘルパー）の派遣、月一回の独居老人

生活を元気づける

(円グラフの数字は、一般会計予算に占める比率)

宅への食事サービスなどを社会福祉協議会への委託事業として実施することとなっています。

また、本年度は、さらにお年寄のふれあいを大切にするため、中通地内に、お年寄のクラブハウスの「老人いこいの家」の建設もします。

国保料が軽減されます

通称「国保」と呼ばれている農林業や自営業の方の医療費の支給を行っている東白川村国民健康保険特別会計で新年度は大きな住民サービスをするこ
とになりました。

私たちの村では、昭和二十六年の「健康な村宣言」以来、各種検診など地道な努力によって平均寿命でも全国レベルに達した「長寿村」となり、健康度の高い村として、国保の医療費の支払いが他町村にくらべて低くなっています。

そこで皆さんからいただく保険料を前年にくらべておよそ10%安くすることにします。また、国保加入者が亡くなった場合に



「あまのみんな食事が」（内覧会で）

支払われる「葬祭費」を三万円から四万円に。加入者の出産に際して支払われる助産費が、今までの十五万円から二十四万円に引き上げられます。さらに新しく一年間無受診の健康家族に報償制度を新設します。

「健康」は、私たちの生活において無くてはならないものです。新年度も成人病検診をはじめとして各種の保健事業を高いレベルで実施するほか、母子保健指導事業も例年通りのものに加え

て「母と子のふれあい教室」「初潮教室」なども予定し、さらなる充実を図ります。



これからの時代は、高齢化がさらに深刻となり、国際化が進み、またさまざまな情報が入り乱れる「変動の時代」が到来するといわれています。こういう時代に対応するため、今のこの時期の「人づくり」は、重要なウエイトを占めてくるのではな

いでしょか。

村では、「人材育成・定着事業費」として二百九十九万九千円を挙げ、昨年同様、各種研修会を行い、継続して「人づくり」に心掛けています。

「人づくり」で忘れてならないのが教育費。本年は文化協会に加盟する九団体へ新たに初心者に入門していただくためのお手伝いを行う「初心者教室」や現在村内で自主的に勉強会を行っている「若妻会」の育成支援などを含めた社会教育、学校教育等は合わせて前年度より六・四%増の一億四千九百九十三万円を計上しました。

さらにもう一つ大切なこととして考えなければならないのが、「生業」でしよう。「地域の特色を生かした産業づくり」をめざし、一般会計の二十%を占める四億一千七十万円を計上

しています。

農業振興面では、収益性の高い園芸作物の生産拡大を計るための「野菜育苗施設」を建設します。これは、今や特産のお茶と肩を並べるまで成長したトマトの生産拡大をねらいとしています。また千宝菜を中心とした「健康農産物の郷づくり」の継続、「農産物加工施設」も漬物やトマトジュースを中心に新たな特産品づくりを目標にいいよ稼働します。また、この施設を利用した「農産物加工教室」も開講する予定です。

(次ページへ)



毎年5月に行われる血液検査

(前ページから)

特産品といえ、(株)ふるさと企画が、ふるさとセンター内で販売していましたが「狭い、入りにくい」といった言葉に応えるべく、「特産品展示販売施設」を建設します。

一方、林業面では、林道の開設の継続三路線が平成四年度中に全線完了をめざすほか、良質な東濃ひのきの生産のため間伐や枝打ちなどへの支援も継続します。

また、商工業の振興には、欠くことのできない商工会活動に對して新年度も継続して補助を行うほか、平成元年から計画され、本年秋ごろ着工、来春早々には、完成の運びとなっている「商工会館」の建設に対する助成も行ないます。

産業を育てるため、活性化のためには、都会との交流は大切な事業です。香良洲町との交流等の継続の交流事業に加え今年度は、新たに「中京村人会」も設立します。

開、主役は村民!

前ページで新年度予算、歳出の大まかな“流れ”を見てきましたが、ここでは、ちょっと気になる興味深い事業をいくつか選び出して、のぞいてみたいと思います。

こんな事業楽しみみです

美しい村をめざして

「村民が自分の村に誇りと愛着を持てるような環境を」そんな観点から生まれたのが「美しい村づくり特別対策事業」です。新年度は、次の二か所に景観を生かした公園を作ります。平の沢尻橋付近の白川沿いは、架橋工事の継続、前山線に接する地点まで沢尻線の増幅を行ない、その道沿いに花壇を、病院方面へ向かう平向線は、誘遊街道として整備し付近に小公園を設けます。また、陰地の農産物加工施設から藤の木橋までの白川沿い一帯を「瀬音公園」と名付け整備します。この公園には、池や、コテージ、水車小屋などを作り二年がかりで実施します。

たいと思います。

真の健康とは?

ふれあいの中にそれを求めます

体格は立派になっただけで体力や根気が無くなった。最近の子供達に共通する特徴ですが、私たちの村も例外ではありません。その原因の一つに「家庭の食事内容に問題があるので」と考えて平成四年度から「母と子の栄養改善」をテーマとして取り組みたいと思います。その内容はまず、家庭教育学級の充実で乳幼児期・幼児期の母親対象の回数を増やし、また、保育児の母親対象の講演会の開催などを行ないます。さらに国保会計の中で栄養教室を年十回開くことなのですが、これらを通して食事の知識や、料理の内容、昔から伝わる郷土食の見直しなど、若いお母さんの知らない部分の学習をお手伝いしたいと思っています。

東京の「東白川クラブ」が関東一円の村出身者の親睦を深めつつ、村の発展のため陰になり日向になって助力しているように、中京地区でも村出身者の親睦組織がいよいよ生まれます。名称は「東白川中京村人会」、参加人員約二百名、設立総会は四月十八日。村からも村長、議長、関係者のほかに、檜茶太鼓も参加し、威勢よく発足の祝い打ちをします。

新年度予算の中で、「東白川中京村人会」「東京東白川クラブ」との交流費用も計上し、むらづくり応援団の活躍に期待しています。

むらづくり応援団
中京村人会結成へ



この子供たちの「健康」が願いです

エンジン全



得られない「基本的なふれあい」を育てることが、この試みのネライなのです。

こもれびの里、四年度は…
誰もが利用できるレクリエーションゾーンとして整備が進められているこもれびの里。平成四年度は実現に向け大きく前進する年になります。

新年度予算では、「こもれびの里整備事業」に三億八千四百十万円を計上。継続中の総合グラウンドは、仕上工事と照明設備等を経て、夏頃には完成の予定。また、宿泊設備も備えた本格的な研修施設「こもれび研修館」も本年度着工、年度内には完成の運びです。

に使用可能な「ハナノキ会館」も調査設計に入り、全体の連絡道「ハナノキロード」も舗装を除き全線が開通します。

- 今年道路整備予定、あわせて45路線**
- ▷日向本線改良舗装工事
 - ▷沢尻線改良舗装工事
 - ▷沢尻東線改良工事
 - ▷馬屋洞線改良舗装工事
 - ▷生活道整備、曲坂5路線115m、陰地7路線235m、大沢5路線184m
 - ▷村早農道整備・一本2号線（下親田）神明支線（上親田）、吉田屋上線（陰地）丸菱線（陰地）、中西線（陰地）、穴沢南線（黒淵）、中道2号線（黒淵）、反歩向線（平）、畑洞線（西洞）、林淵線（宮代）〔10路線1,435m〕
 - ▷基幹農道後山線（100年道路）舗装380m改良790m
 - ▷畑総事業・同木林線、小三池線、中峠線、大沢東線、下野北線、外出線、柏本宮代線〔7路線、舗装2,212m改良640m調査1,860m〕
 - ▷誘・遊街道整備事業（平向線）・せせらぎ荘の対岸からヤマカ酒店対岸付近まで100mの開設。
 - ▷産業団地進入路整備事業（井の平線）村道上親田線の起点から約100mの改良。
 - ▷神矢線・五加バイパスから名商大セミナーハウスまでの間拡中して、一部供用を開始。（835m）
 - ▷林道改良工事として行われるもの、3路線・黒淵林道（120m）・穴沢林道（380m）・久須見大野林道（120m）

スポーツはふれあいの基本

ソフトは引退したけどゲートボールにやちと早い”とお考への方に、新年度からお薦めするのが「グラウンドゴルフ」。ピッチバレーのように盛り上がることを期待しています。また、家族対抗の軽スポーツ大会を行な

いふれあいの場の提供をしたいと思えます。

頑張れ若夫婦！

白川町の中西医院が助産部門を止めた事もあり、昨年度は分娩件数が14件多

い44件だった母子センター。新年度も新しいいのち誕生の場の充実を図り、若夫婦を応援します。

「水」と「緑」をありがとう！ 山を守る2つの事業紹介

今年には記念すべき「簡易水道事業」着手の年。その水源地にあたる越原国有林7.8haを営林署との間に分収造林契約を結び「水源の森」と名付け植林します。

植樹の行事は、村民の皆さんにご協力いただき、一日植林奉仕によって一斉に行いたいと考えています。そして今後半永久的に村の水源林として大切に守り、育てていきます。

もうひとつは県道越原付知線の峠近くにある国有林の原生林3.19haを分収契約し、「郷土の森」と命名し、永久に斧を入れない原生展示林として整備します。説明看板や樹名板などを設けて、教育の場として、或いは森林浴の場として活用できるでしょう。

庁舎準備に入ります

建築されてから100年。よくぞ働いた現在の役場の建物。いよいよ限界です。

平成5年の改築をめざして、今年から調査設計などの準備に入ることとし、その費用14,747千円を予算化しました。

建築場所は、現在の位置ですが、21世紀の村の中核として、コンピューター化や、高度な通信情報処理にも耐え得る機能と、村民の皆さんの親しみやすい建物を目標に構想を進めます。

オープン



平成四年三月四日は、村の歴史に新たな一ページを刻む日となりました。まさに、お年寄にとっては「待ちに待った」待望の施設、東白川村高齢者生活福祉センター「せせらぎ荘」がいよいよオープンとなったのです。

オープンに先がけて、一般公開が二月二十七日～二十九日までの間行われましたが、都合で見学できなかった方のために、今月は、紙面を使って「せせらぎ荘」を紹介したいと思います。

岐阜県第一号

六十五歳以上の方を、「高齢者」と呼びます。

現在、私たちの村は、

この六十五歳以上の高齢者の方が約八百二十人、人口の中で二十四％近い数字を占め、本格的な高齢化社会を迎えています。

「五人に一人は、高齢者」という現状において、体の弱い方のための健康維持増進を目的とした、家庭介護を要する方の支援施設ともいえるべき「デイ・サービス部門」と一人暮らしが不安な方が、長期・短期にかかわらず入居可能な「居住部門」この二つの面を兼ね備えた「せせらぎ荘」は、私たち村民にとってまさに待望の施設誕生といえるでしょう。また、こうした二つの特徴を持ち合わせている

「せせらぎ荘」は、他所には見られない県下最初のモデル施設なのです。

利用はこんな内容で

①デイ・サービス部門

若い世代の皆さんは、気分転換として旅行に出掛けたり、親しい友達とおして遊びに行ったりというような経験があると思います。これは、大切な健康法の一つなのですが、高齢になると、散歩の機会が少なくなったり、中には寝たきりになってしまったり、出たくても出られなくなったり、そういった方たちのためにやすらぎの場を提供するのが「デイ・サービス」です。

「デイ・サービス部門」の利用については、おおむね六十五歳以上



自宅までお迎えに行きます

の寝たきりの方、痴呆の方、体の弱い方が対象となり、各種のサービス（送迎・健康チェック・入浴・食事等）を行うものです。利用日は、毎週月・金曜日（祝日除く）、利用時間は、午前九時～午後四時まで、利用定員は一日十五人程度。また、一回の利用料金は千円です。

なお、デイ・サービス部門の利用を希望される方は、「利用申請書」を提出する手続きが必要となります。

②居住部門

現在、村には約五十人の独居老人の方がみえます。そういった皆さんが、例えば冬の寒い期間だけでも暖かい所を過ごしたい、という夢を可能にしたのが居住部門です。

対象となるのは、おむね六十五歳以上の方で原則として自炊ができ、一人暮らしが心配な方が諸手続きの上、長期・短期にかかわらず入居できます。

☆詳しくは、せせらぎ荘（☎八二二・三九二）（☎二七三七）・社会福祉協議会事務局（☎八二二〇五九）（☎二〇九八）・民生課（☎八二二・三二二）（☎二二六二）まで。

この日を待った
(老人クラブ内覧会より)



桂川繁子さん (日向)

感謝の気持ちでいっぱいです。長生きしなければ…

ようできとる。
畳の部屋や風呂は
気に入りました。



中島禮太郎さん (神付)



今井ひさのさん (柏本)

トイレまでも足の悪い私たちにとって親切設計です。

座っても、素足でも暖かい、床暖房は快適です。



今井軍司さん (西河)



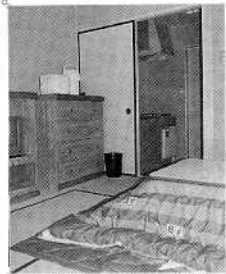
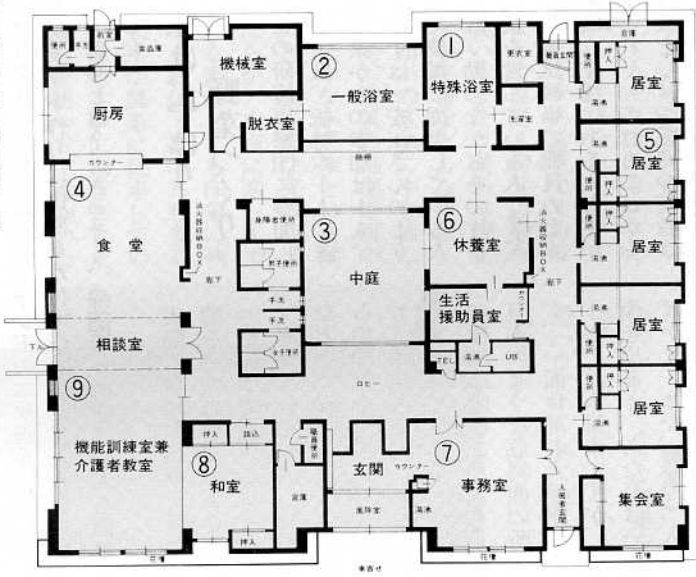
せせらぎ 待望

▲③中庭…玄関を入るとまっさきに目に飛び込んでくる中庭、これもせせらぎ荘の顔です。
◀④食堂…なんといっても楽しみは食事。昼食とおやつはここでとります。

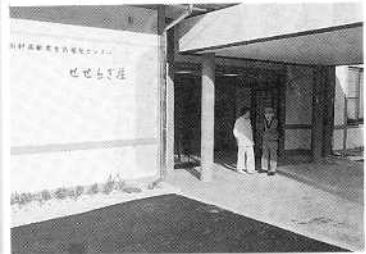


▲①特殊浴室…体が不自由な方も寝たまま入浴できます。
◀②一般浴室…体の疲れをほぐす、ジェットバス機能完備。

平面図



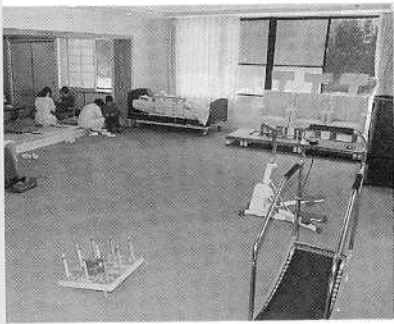
▲⑤居室…居住部門の部屋。個室となっており合計5室完備。コタツ・テレビ・炊飯器等は常設。



せせらぎ荘の顔



▼⑧和室⑨機能訓練室…健康チェックの場であり、軽い運動やゲームなどを楽しめる器具も用意されています。



▼⑦事務室…所長と8人の職員が待機しています。なお、所長は4月1日付で役場から出向予定です。



▲⑥休養室…寝たきりの方や体の不自由な方が、ここで休養します。



二つの施設の名称も決定

かねて募集を行っていた「農産物加工施設」（陰地）と「集合住宅」（中通）の名称が決定しました。一般から二十三点の応募があった加工施設は、栃山の安江幸さんの応募作「味の館（やかた）」に、小学校五・六年生と中学生に応募した教職員住宅は、約百三十点もの応募の中から安江伸予さん（神付）・藤井久美子さん（大沢）の作品「清流荘」に決まりました。



あじ やかた
「味の館」

「清流荘」





オーストラリア 豪州

見聞録

広大な放牧地

十二日間の視察の内容は、オーストラリアで六日、ニュージーランドで六日という日程で、二班に分け、あちらの試験場やDSIRといって日本の農協のような団体の視察はもとより、

去る二月四日から十五日までの十二日間、「海外農業研修視察団」(日本農業新聞主催)の一員として安江敏治さん(日向)が、オーストラリア・ニュージーランドの二か国を訪問しました。夏秋トマト作りに情熱をかけている安江さんが肌で感じた海外の農業とは? さっそく、帰国早々の安江さんを直撃してみました。

興味は、やはり野菜づくり

今回この研修視察団に参加したメンバーは、総勢六十人。その内岐阜県からの参加は十人。メンバーは、安江さんのように専業で農業に従事している人もあれば、勤めながらその片手に農業を営んでいる人、また、農協や農業試験場の職員のように指導的な立場にある人などから選抜され、いづれもこれからの農業をしっかりと立つ若者ばかりです。

実際に現地の農家を訪ねその実態を目の当たりにできるものだったそうです。

海外へ行くのは、初めてだったという安江さんですが、あちらの印象をたずねると開口一番でできた言葉が「広さ」でした。「日本と最も違う点は、農地が極端に広いことです。しかも日本のような急斜面の所などなく、一面牧草の大平原。シドニーなどは大都市ですが、一歩市街を出ると、あたりは一面農地ばかり。また、農業は、人口一人に対して羊二十頭といわれるほど羊・牛の放牧が盛んで、その中心ですが、他にもキャベツ・ピーマン・ジャガイモなどの野菜を作る農家もたくさんあります。いずれも、日本に比べ違う点は、まず大規模であること、



おしらせ

国民年金保険料が月額九千七百円に

農業や自営業に従事されている国民年金の第一号被保険者の方から毎月納めていただいていた国民年金の保険料は、四月から平成五年三月までの間、月額九千七百円になります。また、六十歳以上六十五歳未満の方などで、任意加入されている方の保険料も同様に月額九千七百円になります。

なお、付加保険料は、今までどおり月額四百円です。公的年金は、国民全体で支える「世代と世代の助け合い」の制度です。毎月、忘れないよう納めましょう。

大河ドラマ「信長」オーブンセット公開

入場券販売中

現在放映中のNHK大河ドラマ「信長」のオーブンセットが、



岐阜市太郎丸にて公開中です。このオーブンセットは、面積約6畳、一辺150坪の城濠を中心に、岐阜城・清洲城・那古野城の大手門や主殿等、戦国時代さながらに再現されており、また、土産物・軽食等の「楽市楽座」12店舗設けられています。村では、この入場券(大人500円)を役場総務課で販売しております。

この機会にぜひ、一度お出掛けになり、戦国気分につけてははいかがでしょうか。

防霜ファンを お使いの皆さんへ

お茶のシーズンが近づき防霜ファンが動き出す時期がやってきましたが、ご使用の際には必ず次のことをご確認下さい。

①施設の点検及び試運転は必ず行ない、ファンの回転確認をして下さい(試運転は、使用前直前にお願いたします。)



安江敏治さん

さらに、気候・土壌などあらゆる面で条件に応じた農業を行っていること。日本のように、お金をかけ、条件を作り出すのではなく、あたえられた条件の範囲内で大量に生産しているこれが大きな相違でしょう」

オセアニアの諸国といえば「放牧」という印象が強いのですが、安江さんの興味は、やはり野菜作りにあったようです。中でも気を引いたのが「トマト」でした。さっそく味見をした安江さんいわく「バサバサして、なんとも大陸の味」だったとか。

誇りを持って

楽しみながら農業を

「農業」という仕事は、どちらかといえば「閉鎖的で重労働」といったような暗いイメージが持たれがちで、日本の農村では後継者不足が深刻な問題になってきてい



トマト畑

ます。農業後継者として海外を訪れた安江さんは、現地の農業に従事する人々の話から次のような印象を語ってくれました。「地域性や国柄もあるのですが、とにかくこの人たちは明るい。それに自分たちがフアーマー(農夫)であるということが自信と誇りに満ちあふれていました。確かに例えば放牧なら牛舎などもないし、草のある囲いの区域に牛を放しておくだけ、糞尿の処理や餌の心配など全くない。楽といえば楽だけれど、農作業に従事している人たちが、本当に楽しんでやっている姿がとても印象に残りました。また、若い人も多く人口の大半が農業に従事していることにはさすがに驚きました。少ない農地を使って、作物のための環境改善を行ない、いかにして収量を上げようか、と考えている自分にとっては、こうした姿は、何か考えさせられるものがありました。」

十二日間という短期間の視察ではありましたが、安江さんにとっては、これから先の農業を考



ニュージーランドの農家

えていく上で大きな経験となつたようでした。

「三月に入ると、いよいよ夏秋トマトの播種が始まります。今回の視察を経験して、これから先、自分の持っている技術に自信と誇りを持ち、また、オーストラリアやニュージーランドの人たちのように農業をエンジョイしながらやっていきたいと思えます」と熱っぽく語ってくれました。

図書コーナー

千日の瑠璃 (上・下)

丸山 健二著



千節もある超大作に見事に魅了された。田舎町で多彩な人物が寸劇を演じ去っていく。その中心にいる体の不自由な少年とオオルリの生涯とおして、万物の死生に感動した。

推薦人 (55歳 女)

おばあさんは医学博士

森 省三著

長良川病院の先生が書かれた評判の本ときいてさっそく手にし、面白く読んだ。「迷信」といわれている事をおばあさんと孫の物語でやさしく書いてあり、自分も博士になった感じがした。

推薦人 (68歳 女)



- ②万一、不良箇所発見の場合、ただちに修理して下さい。
 - ③ファンが故障した場合のメーカー代理店、電気工事店等、関係箇所の連絡先を再確認のうえ、緊急に備えて下さい。
 - ④停電した際、自動的にスイッチが「切」になる機種がありますので電気がついた場合、スイッチが「入」になっていることを必ず確認して下さい。
- ※もし、異常を発見されましたら、すぐにメーカー、電気工事店又は中部電力へご連絡下さい。

▼中部電力(株)金山サービスセンター ショーン ☎〇五七六三(二)

土地取引の届出方法

が変ります

二〇五四▼同白川サービスステーション ☎〇五七四七(二)一〇七四番までお願いします。

一万平方m以上の土地取引を行おうとするとき、国土利用計画法により、あらかじめ県知事に届け出なければならぬことになっていますが、平成四年四月一日以降に受理する届出書・確認申請書には、実印を押印し当事者双方の印鑑証明書を添付していただくことになりました。なお、詳しいことは、役場企画課までお問い合わせ下さい。

珍品

宇宙からの贈り物？
小笹の山の謎の物体



中味はデンプン質の白い粉？

直径約十センチ、球体。ソフトボールの三号球ほどの大きさと重さ。しかも部分的にやわらかい。その色つやからは、松のかぶのようにも見えますが、木と接する部分が、見あたらない。
このなんとも摩訶不思議な物体を発見したのは、古田吉一さん（上親田）。小笹の山で山仕事をした帰り道の出来事だったそうです。

縁談

愛子さんの「陽春」
国際舞台へ登場



田口愛子さんの作品「秋」

本村出身の日本画家田口愛子さんは、日本美術院の院友として院展の常連入選者であること、ご存知の方も多いと思います。
その愛子さんの大作「陽春」が、立村百年を記念して東白川村に寄贈され、村民センター玄閣ホールに飾られています。
菜の花の咲き乱れる日本の農村風景を描いたこの作品がこのほどロンドンの日本大使館新築記念に永久的に展示する画として白羽の矢が立ちました。
イギリスの人びとはもとよ

り多くの外国の人たちに、日本のふるさとを感じていただき、国際親善に役立つならばと、村では気持ち良くこの縁談を受けることとし、「陽春」はロンドンへお嫁入りすることになりました。代りにいたたく大作「秋」の写真とともに村民の皆さんにお知らせします。

戸籍の窓に敬称略（二月）



誕生おめでとう
ごさいます

講演

山村が荒廃すれば…
都市が明日崩壊する？



日本人は、古来から植林をした世界唯一の民族です」と熱弁

演題は「魅力ある山村の役割」三団体の協力で昨年からはまった「山村活性化講演会」。二回

めとなる今回は、二月二十三日村民センターにおいて環境問題の第一人者で評論家の富山和子先生をお招きして開かれ、百余人が出席。

水と緑と土との関係を東京の大干ばつ等を例に挙げながら熱弁。「山村の役割は、水と緑と土を作り出す森林を守ること。そのための人づくりを行って欲しい」と述べ講演を終えました。

反響

一年後、リサイクルの種は
大きな実をつけました



回収された牛乳パック

昨年広報三月号でもリサイクル運動の一環としてみなさんに紹介をした「牛乳パック回収運動」。投げた小石の波紋は幾重にも広がりをみせ、婦人会が年間活動として回収に着手。この

二月に集められた牛乳パックがまとめて処理業者に渡されました。その数なんと七千四百五十枚。重量にして二百四十五キロ。ゴミと一緒に燃やしてしまうば、ただの紙である牛乳パックも再生すればトレットペーパーとして再利用ができるのです。なお、処理料金として得たお金は、社会福祉協議会へ寄付されました。

（い） （じ） （ば） （ん）



おくやみ
申しあげます

- （陰地）稲垣 隆 初美 奈緒
- （柏本）安江 雅彦 千菜子
- 千佳子 千佳子

- 田口新太郎 83歳（大明神）
 - 藤掛 ひで 65歳（日向）
 - 安江 美枝 90歳（上親田）
 - 長田 やす 78歳（平）
- 善意の寄付に敬称略
「社会福祉施設整備基金指
定寄付」

接近

炉を囲み 田舎料理に舌鼓

「田舎だからこそ田舎でしか出来ないおもてなしを」と「せせらぎ荘」の竣工式を終えた梶原岐阜県知事をお招きしての昼食会が「伝承の館」で開かれました。



田舎料理を囲んでの昼食会

「この日のために用意しました」と調理人を買って出た田口諫男さん(神付)ご自慢の「しし鍋」を始めとして「芋餅」、「地鶏、雉、山鳥の焼き肉」、「あまごの炭火焼」とまさに「東白川風究極のメニュー」。「東白川村は、健康な長寿村だから



ハナノキの植樹

このメニューを「長寿膳」として売り出してみてもは」と梶原知事もかなりご満悦の様子。また、食事の際には、囲炉裏を囲んで、知事と一緒に村長、議長のほか、老人クラブを代表して安江正逸さん・安江和男さん・安江や江さん・安江ちよさんの四人も同席。日頃めつたに無いことだけに「この日ばかりは」と村のヒーローにも余念がなかったようでした。

次いで食事を終えた梶原知事は、「伝承の館」前にてハナノキの記念植樹。この日は、農村公園にてゲートボール大会も開かれており、梶原知事を一目見ようと集まった約五十人のお年寄りが見守るなか、再度の米村を約束され帰路へとつかれました。

民謡

お手並み拝見! 自慢の喉を見事に披露

その土地土地で昔から歌い継がれている「民謡」。



出で立ちもプロ顔負け...

二月九日「民謡愛好者同志大会」が、村民センターで開かれ約九十名が参加、日頃鍛えた自慢の喉を遺憾なく発揮しました。今回で五回を数えるこの大会は、六市町村(中津川市・下呂町・付知町・福岡町・加子母村・東白川村)の十三の愛好会が毎年持ち回りで会場を移し開くもの。参加者の女人顔負けの歌声は心地良く響いていました。

入園

「はやくこい」 春は出会いのシーズンです



先生に名札をもらって「おねがいます」

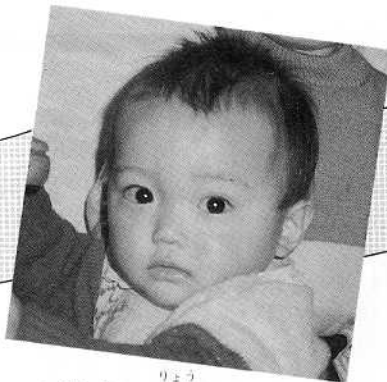
「春」この季節から何を連想しますか?春は別れのシーズンであり、また新たな出会いのシーズンでもあります。

三月三日、五加保育園では、「ひなまつり」と四月から入園する七人の「一日入園」が行われました。

いつもは保育園に通うおにいさんやおねえさんたちと一緒に遊んでいる子もいるそうですが、

- 現金二十万円 田口稔(平)
- 現金十万円 安江諄六(大明神)
- 現金十万円 田口徳(大明神)
- 現金二千四百五十円 東白川村婦人会(牛乳パック回収料金)
- 現金五十万円 安江一美(上親田)
- 現金五万円 匿名
- 現金一万円 匿名
- 【神戸保育園へ】
- 画用紙糊一台 平成三年度卒園児保護者一同
- 【越原保育園へ】
- オードブル六枚 平成三年度卒園児保護者一同
- 絵本二十五冊 保護者会退会者七名
- 【五加保育園へ】
- カメラ一台 平成三年度卒園児保護者および保護者会一同

満1歳



▲安江 凌くん (忠広さん・成子さん二男一子親田)

このコーナーの子ど
もたちみな同い年。
10年後、20年後「広
報」もみればホラ!
1歳のあの子の顔が……

ふれあい広場

新婚さん♡

■ワン・ショット■

「東白川
小学校へは
オープンス
クールの研
修に来たこ
とがあつた
んですが、
まさか東白
川の人のお
嫁さんにな
るなんて……」

と語ってくれたのは、現在八百
津町で教師をしている奥さんの
こずえさん。今回ご紹介するの
は、桂川憲生さん・こずえさん
ご夫妻です。
実はこのカップルは、社会福
祉協議会が開く「青年フォーラ
ム」(若者達の出逢いの場)が
生んだ第一号のご夫婦です。同
僚の誘いで「クリスマスパーテ
ィー」にこずえさんが参加した
のが一昨年の冬。会が終わったあ
とに憲生さんがすぐに食事に誘
ったとか。まさに「一目会った
その日から……」だったそうです。
「静かな所」これが憲生さん
の家(大明神)へ初めて行った
時の第一印象と語るこずえさん
は、瑞浪市のご出身。現在は、
仕事の関係で川辺町で二人暮し
ですが行く行くはこちらに住み
たいとか。



桂川憲生さん・こずえさん

この写真は引き
のばしてお二人
に進呈します。

「子供は何人
でも」と語る
子供好きなお
二人です。

ふるさと のめとば

36

☆サンショイオ

東白川村の新築などの奥山の、
透き通るようなきれいな水がち
よろちよると流れるところに棲
むこの小動物をご存じでしょ
うか。毎日、山で仕事をなさる方
々にはお馴染みの「サンショイ
オ」です。

正しくは「サンショウウオ
(山椒魚)」といいます。

体長は一〇〜一八cmぐらいで、
体色は青みを帯びた黒褐色をし
ており、形は「イモリ(井守)」
に似ています。

生まれてから二年間は流れの
中で過ごし、その後は枯れ葉の
下などに棲むようです。みつば
つつじの花の咲くころが繁殖期
だといえます。

両生類有尾目サンショウウオ
科に属する動物で、「ハコネサ
ンショウウオ(箱根山椒魚)」「
ヒダサンショウウオ(飛驒山
椒魚)」などの種類があるよう
ですが、東白川村に棲む「サン

ショイオ」が「何サンショイオ」
かは、はっきりしません。
ちなみに、「ハコネサンショ
ウオ」は箱根に生息するから
この名があるというのではなく、
全国各地に分布します。

江戸時代、箱根の人たちはサ
ンショウウオを掴まえて串刺し
にし、日干しにして売りました。
ミイラのようになったサンショ
ウオは、子供の疳の虫の薬と
してよく売れました。癩癩を起
こさせ、夜泣きをさせる疳の虫
を退治するというサンショウウ
オの日干しは、往來の旅人たち
が競って買うようになり、いつ
の間にか箱根の名物になりました。
た。「ハコネサンショウウオ」
の起源はここにあるようです。
なお、白川などにいる「オオ
サンショウウオ(大山椒魚)」
を「サンショイオ」ということ
もありですが、これはハンザキ
科の動物で、まったく別種です。



このコーナーは、今月号
で最終回です。3年3か月
にわたり執筆をお願いした
のは田口博さん(前教育長)
イラストは総務課の安江綾
子さんでした。



「東京旅行記」

商工会青年部部長

田口真澄(平)

二年毎に行っている商工会青年部の研修旅行。今回は二月一日から二日間東京東白川クラブの方との交流を含めた「東京旅行」となりました。あらゆる情報の発信地である首都東京を肌で体験すべく、意気込んでの出発となりましたが私たちが一行を出迎えたのは、前日からの大雪と震度五の大地震でした。

駅に着いた私たち一行は、東京東白川クラブ副会長長安江富士夫さんの出迎えを受け、都内見学に向かいましたが一歩駅を出るとそこは一面雪景色。雪には慣れている私たちは、東京がいかにも雪に弱いかを実感できませんでした。この後、東京タワー、新都市と案内をしていただきました。新都市に焼き付いています。



浅草の観音様前で

また「遠くにいるからこそ故郷の発展を願う気持ちが強い」という話には、村にいる私たちが頑張らねばと改めて感じました。東白川クラブの皆様には大変お世話になり紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

「都会へ行つとる子供らが遊びに来いといつてくれるけど、今の仕事が好きだからなかなか行く気にもなりません。家におつてもやることあないし、昼のぬくというちだけでも山へ来とるだけでいいんですよ」と本当に楽しそうに語られる。



「窯作りは、大変です」と山口さん

「炭焼き窯を作る場所は、井戸を掘るようなもんで、いい場所を見つけたのは一苦労です」と元気に語って下さったのは、明治四十年生まれ、今年八十五歳になる山口逸二さん(上親田)。

今なお「炭焼き」の現役です。とにかく、「山が好き」だという山口さん、炭焼きは、子供の頃、手伝いで始めたのが最初とか。若い頃は、植林などの山仕事をしていたそうですが、第一線を退いた後も、山の魅力から離れられず、数年前から昔とった杵柄で再び炭焼きを始めた。

「都会へ行つとる子供らが遊びに来いといつてくれるけど、今の仕事が好きだからなかなか行く気にもなりません。家におつてもやることあないし、昼のぬくというちだけでも山へ来とるだけでいいんですよ」と本当に楽しそうに語られる。

暖かくなって、畑に出られる日が来るのが、今から本当に待ち遠しいと語って下さった山口さん、今日も元気に自転車でご自慢の炭焼き窯へと向われま



▲安江綾美ちゃん

(喜重さん・幸子さん二女一黒湖)



「大変な仕事ですが、頑張つて下さい。期待しています」とせせらぎ荘の八人の職員の皆さん一人一人と握手をされた梶原知事。竣工式での一コマでした。



働くお年寄り 我が生涯 これ一筋 炭焼き

現在は、以前作った窯が良くなかったそうで新しい窯の制作中とか。そんな山口さんに健康の秘訣を伺ってみると「別に何にも考えたこともない。若い時分は「大飯ぐい」といわれるほどご飯を食べたけど今じゃ少ししか食べんし、酒は昔から一滴も飲まん。しいていえば、昔からお茶が好きやからようお茶を飲むことやね」と、どうやら山口さんにとっては、白川茶が「長寿の秘薬」なのかもしれせん。

わたしの作品



▲「手」
東白川中学校2年生
安江利子さん(大明神)



▲「手」
東白川中学校2年生
村雲史枝さん(中通)



▲「版画」
(しっかりかきまぜよう)
東白川小学校5年生
河田美佳さん(西洞)



東白川小学校3年生
仲澤 愛さん(曲坂)
「版画」(さかあがり)



▲「おひなさま」
五加保育園
やすえまいちゃん
(柏本)



▲「おひなさま」
五加保育園いまいけんじくん(宮代)

広報文芸

● 短歌

かたくなな漢字があらてその間にひらがな流すは都雅のしるし

浦和市 桂川 熊吉(東白川クラブ)

師も無しに作る人形のむづかしき作りてこわしこわして作る安江 幸

金柑の甘露煮作る夜の厨勺ひ甘酸く吾をも包む 今井 かな

● 巨大なる堰堤築かれ幼き日に雑魚つりし幻となる 安江とし江

● 潮騒と花とフルーツと陽の光あふるるばかり伊良湖畔は 安江 龍玉

追難の豆片手にあふるる年となり吾来し方の泌々思ほゆ 安江 澄

塩加減水の分量しっかり今年も味噌の仕込みますなす 三戸 きり

初雪の舞ふ我が庭の山茶花を剪りて活けたり暖房の部屋に 田口 一枝

公害のなき千里浜の海風きて孫等はしやきて浜かけ廻る 安江 節子

● 分婉介助済して帰る夜の道下弦の月もほほえみかける 安江とくよ

● さくさくと霜柱踏みはしやく孫目は次なるを追い求めおり 安江 順子

豆撒きの心許なさにふと憶う幼な昔の活気はどこに 安江 守平

招かれし結婚式に花嫁の孫初々しほればれと見る 安江すみよ

障子穴派手になるとは知りつつも可愛い孫の手探り返す 安江 富枝

好きなれば遠くより来て雪の中冷たさ忘れマス釣樂しむ 早瀬 久子

還暦をともに迎える夫とわれ互に疲れをいたわる今日は 若井のぶゑ

兄の葬儀に故郷訪へど会ふ人の世代替り居て面影とどむ 伊藤 美枝

眼の窪みあな深けれど蠟面に笑み浮びて逝き給ふ兄 伊藤 重雄

あなたの作品をお寄せください。初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。●偶数月の二十日までに神土伊藤重雄宛に出して下さい。



こぼれ話

機会があった、この間、愛知県東加茂郡足助町の足助屋敷へ寄った。

足助屋敷は紅葉の名所で有名な香嵐溪の中にあり、秋の紅葉の時期には昼はもとより、夜もライトアップがされており毎日大勢の人でにぎあう所であるが、この二月に訪れる人があるだろうかと思っ

たら、あにはからんや、若

て、この間、愛知県東加茂郡足助町の足助屋敷へ寄った。

現在、足助屋敷には約四〇人のお年寄りが働いており、その作業も昔の道具をつかい、昔にこだわっておられる。この人達による年間の売上げが三億五千万円で、一番売上げの多いのが

檜茶屋での食物の売上げ、その次が炭焼きからの木炭だそうだが、早速、その檜茶屋へ行き千円の検定食を食べてみた。

メニューは、五平餅・鮎の塩焼・でんがく・ソバ・豆腐でどれも美味しかった。そこのおばさんに聞いたら、どれも地元で生産されたものを足助屋敷で作り、この檜茶屋では地元のものしか売らないとのこと。ここでもこだわっておられた。

いきいきと働いておられるお年寄りを、村のこもればの里の二年後を想定してみた。

い

い

い

い

い

い

い

い